

⑬情報

(i) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた情報科の目標の在り方

(ア) 現行学習指導要領の成果と課題

- 近年、情報技術は急激な進展を遂げ、社会生活や日常生活に浸透するなど、子供たちを取り巻く環境は劇的に変化している。今後、人々のあらゆる活動において、そうした機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことがもはや不可欠な社会が到来しつつある。それとともに、今後の高度情報社会を支えるIT人材の裾野を広げていくことの重要性が、各種政府方針等により指摘されている。そうした中、情報科は高等学校における情報活用能力育成の中核となってきたが、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではないのではないかと、情報やコンピュータに興味・関心を有する生徒の学習意欲に必ずしも応えられていないのではないかとといった課題が指摘されている。
- こうしたことを踏まえ、小・中・高等学校を通じて、情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を育む学習を一層充実するとともに、高等学校情報科については、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要となってきている。

(イ) 課題を踏まえた情報科の目標の在り方

- 情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核として、小・中学校段階からの問題発見・解決や情報活用の経験の上に、情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な理解や思考力等を育み、ひいては、生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる力を育む教科と位置付けられる。そこで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理された小・中・高等学校の各教科等の学習を通じて全ての生徒に育むべき情報に関わる資質・能力を踏まえ、情報科において育む資質・能力を整理し（別添14-1を参照）、さらに、これを踏まえて情報科の教科目標を示すことが必要である。（小・中・高等学校を通じた情報教育と高等学校情報科の位置付けのイメージについて、別添14-2を参照）。
- 情報活用能力については従前から情報教育の目標の3観点を示され、主として情報活用能力を育むための指導内容や学習活動を具体的にイメージしやすくし指導を充実させることに寄与してきた。今後、「三つの柱」による資質・能力の視点を踏まえることにより、育むべき資質・能力とも関わらせながら具体的な指導内容や学習活動が一層イメージしやすくなるものと考えられる。

(ウ) 情報科における見方・考え方

- この際、情報科は、情報と情報技術に関する理解と技能とを基盤として、問題を発見・解決する能力や態度を育むことを目的としてきており、いわば情報技術の活用による問題の発見・解決の過程や手法そのものをも学ぶ教科であるということが情報科の特徴であり、情報科における見方・考え方とは、「事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等）について考える」ことであると整理した。
- なお、情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核であるから、カリキュラム・マネジメントを通じた、中学校の関連する教科等との縦の連携、高等学校の他教科等との横の連携も極めて重要である。

(ii) 具体的な改善事項

(ア) 教育課程の構造化

(a) 資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 情報科の学習は、社会、産業、生活、自然等の種々の事象の中から問題を発見し、プログラムを作成・実行したりシミュレーションを実行したりするなど、情報技術を活用して問題の解決に向けた探究を行うという過程を通して展開される。実際の学習過程には多様なものがあると考えられるが、一例としては、次のようなプロセスが考えられる。（別添 14 - 3 を参照）。
 - ①社会、産業、生活、自然等の事象の中からの問題の発見（モデル化や統計的手法等を活用）
 - ②情報の収集・分析による問題の明確化、解決の方向性の決定
 - ③合理的判断に基づく解決方法の選択、手順の策定や基本設計
 - ④情報技術の適用・実行
 - ⑤得られた結果を社会、産業、生活、自然等の問題に適用して有効に機能するか等についての検討（これらのプロセスに並行して、情報や情報技術等に関する知識の習得を行う。）

(b) 指導内容の示し方の構造

- 情報科においては、学習過程は上で述べたように多様なものが考えられるが、資質・能力を明確に示すことによって、具体的にどのような指導を行えばよいのかがイメージしやすくなるものと考えられることから、教育内容については、情報科で育成する資質・能力を、情報技術と情報を扱う方法にしたがって整理した上で、それぞれの教育内容を更に資質・能力の「三つの柱」に沿って構造化することが適当である。

(イ) 教育内容の改善・充実

(a) 科目構成の見直し

- 情報科の科目構成については、現行の「社会と情報」及び「情報の科学」の2科目からの選択必修を改め、問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必修科目としての「情報Ⅰ（仮称）」を設けるとともに、「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や情報コンテンツを創造する力を育む選択科目としての「情報Ⅱ（仮称）」を設けることが適当である。（別添 14-4 を参照）

(b) 教育内容の見直し

- 情報科については、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むとともに、情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための科学的な考え方等を育むことが求められている。そのため、具体的には、コンピュータについての本質的な理解に資する学習活動としてのプログラミングや、より科学的な理解に基づく情報セキュリティに関する学習活動などを充実する必要がある。また、統計的な手法の活用も含め、情報技術を用いた問題発見・解決の手法や過程に関する学習を充実する必要がある。
- これを踏まえ、「情報Ⅰ（仮称）」においては、プログラミング及びモデル化とシミュレーション、ネットワーク（関連して情報セキュリティを扱う）とデータベースの基礎といった基本的な情報技術と情報を扱う方法とを扱うとともに、情報コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザインを扱い、さらに、この科目の導入として、**情報モラルを身に付けさせ**情報社会と人間との関わりについて考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- また、「情報Ⅱ（仮称）」においては、情報システム、ビッグデータやより多様な情報コンテンツを扱うとともに、情報技術の発展の経緯と情報社会の進展との関わり、さらにAIやIoT等の技術と今日あるいは将来の社会との関わりについても考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- なお、プログラミングに関しては、中学校技術・家庭科（技術分野）においても充実させることとしており、情報科の内容の検討に当たっては、学習内容の適切な接続・連携により学習に広がりや深まりが生まれるよう留意する必要がある。さらに、小学校段階におけるプログラミングの体験を通じて「プログラミング的思考」を育むことや、学校外におけるプログラミングに関する学習機会の充実に向けて、種々の検討や、企業、NPOにおける取組等がなされており、これらの動向も考慮して検討する必要がある。

(ウ) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(a) 主体的・対話的で深い学びの実現

- 情報科における「深い学び」とは、具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用

を探究していく中で「見方・考え方」を働かせ成長させること、それとともに、情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくことであると考えられる。

- 情報科における「対話的な学び」とは、生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究したり、産業の現場など実社会の人々と関わるなどして現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感をもって理解したりすることなどであると考えられる。
- 情報科における「主体的な学び」とは、見通しをもって試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組むことや、生徒に達成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより進んだ課題に取り組んだりすることなどであると考えられる。

(b) 教材や教育環境の充実

- 情報科の教材（教科書を含む。）については、いたずらに細かなあるいは高度な知識を身に付けさせるのではなく、生徒が問題の発見・解決に向けて情報技術を積極的に活用し主体的・協働的に学習を進めることができるものが適当である。その上で、生徒の興味・関心等に応じて、より進んだ学習も含め、主体的に学習を深めていくこともできるよう配慮されたものであることが望まれる。また、プログラムの制作・実行環境等については、情報科の趣旨を踏まえた授業の実施に適したアプリケーション等の開発・提供が必要であり、国や教育委員会と民間等との連携によりそれらの開発・提供が促進される必要がある。さらに、民間独自の良質な教材や学校外の教育プログラムなどとの連携等を促していくことも必要である。
- 情報科担当教員について、各都道府県教育委員会等においては、情報科免許状を有する者の計画的な採用・配置や現職教員の情報科免許状保有の促進等により、免許外教科担任や臨時免許状による担任の解消に務める必要がある。また、情報科の指導内容・方法に関する研修の充実による担当教員の専門性向上も急務であり、国においても各都道府県教育委員会等における研修の充実に資する支援策を講じる必要がある。
- 情報科における学習を充実していく上では、教育用コンピュータだけでなく、安全で高速にインターネット接続できる大容量のネットワーク環境等、学習活動の充実に必要なICT環境全体の整備を進めることが不可欠である。なお、ネットワークのセキュリティに関しては、不正アクセス等に対する十分な対策を講じると同時に、有害情報対策等がかえって必要な学習活動を展開する上での過剰な制約とならないようきめ細かな設定等に留意する必要がある。

160

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解 情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造に情報技術を活用する力 プログラミングやシミュレーションを効果的に実行する力 情報技術を用いたコミュニケーションを適切に実行する力 複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度 自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

（参考）高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関わる資質・能力

※総則・評価特別部会第4回（平成28年1月18日）資料における整理

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> （思考や創造等に活用される基礎的な情報としての）教科等の学習を通じて身に付ける知識等 情報を活用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解 問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段（コンピュータなど）の特性についての理解とその操作に関する技能 アナログ情報とデジタル情報の違い（Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い）など、情報の特性の理解 コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解 社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解 情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力 <ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力 情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力 相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力 問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする情意や態度等 自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等 情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等 情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会（情報の果たす役割が一層重要になっていく社会）に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していこうとする情意や態度等

高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関わる資質・能力※

知識・技能
(何を知っているか、何ができるか)

161
思考力・判断力・表現力等
(知っていること・できることをどう使うか)

学びに向かう力、人間性等
(どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)

- ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて身に付ける知識等
- ・情報を活用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解
- ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作に関する技能
- ・アナログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

- ・情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力
 - 一 目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力
 - 一 情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力
 - 一 相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力 など
- ・問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力

- ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする情意や態度等
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等
- ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要になっていく社会)に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していこうとする情意や態度等

「情報科」

- ◎情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人間との関わりについての理解を深めるようにする
- ②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う
- ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

【高等学校】(各教科等)

- ◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

(技術・家庭科「情報に関する技術」)

計測・制御やコンテンツに関するプログラミングなど、デジタル情報の活用と情報技術を中心的に扱う

【中学校】(各教科等)

- ◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

- ・基本的な操作技能の着実な習得
- ・プログラミングの体験 等

【小学校】(各教科等)

- ◎様々な問題の発見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていることや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によさや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【幼稚園】

幼児教育において培われる基礎(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

問題発見・解決のプロセス

問題の発見

問題の定義
解決の方向性の決定

解決方法の探索
計画の立案

結果の予測
計画の実行

振り返り

次の
問題解決へ

社会等の事象の
中からの問題の
発見

既知の手法の適用
又は新たな手法の
習得・活用
・モデル化
・統計的手法 等

情報の収集・分
析による問題の
明確化

解決の方向性の
決定

合理的判断に基
づく解決方法の
選択

手順の策定や基
本設計

情報技術の適
用・実行

・プログラムの作成・
実行
・シミュレーションの
実行
・情報デザインの適
用 等

評価・改善

社会等の問題に適
用して有効に機能す
るか等についての検
討

※必ずしも一方通行の
流れではない
※「社会等」=社会、産
業、生活、自然等

次の問題解決
又は現実の問題
への適用

情報や情報技術等に関する知識の習得

社会等の問題の把握

抽象化された「情報」の「情報技術」による取扱い

社会等の問題への適用

ICTの効果的な活
用場面と活用方法

インターネット等を活
用した調査活動

プログラムや作品の(協働)制作、
シミュレーション、データの分析

結果の統計的分析

協働での意見の整理

記録の活用
(自らの学びの振り返り)

主に個別の知識の習得

主に活用を通じた知識の概念化、
情報技術を活用する技能の習得

事象を情報とその結び付きの視点から捉える力

問題の解決に向けて情報技術を適切かつ効果
的に活用する力

見通しを持って問題を解決しようとする意欲

学んだことを生かし情
報社会に参画・寄与し
ようとする態度

留意すべき点

- ✓ 各プロセス及び各プロセスとICT活用例や評価場面との対応は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ✓ 学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

情報科における主な学習過程の例

162

資質・能力の育成と主な評価場面

知識技能

思考・判断・
表現

主体的に学習に
取り組む態度

「情報Ⅰ（仮称）」（情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必修科目）

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

（項目の構成案）

(1) 情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりシミュレーションを通してモデルを評価したりする力を育む。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

「情報Ⅱ（仮称）」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

（項目の構成案）

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。
○ 課題研究	情報Ⅰ（仮称）及び情報Ⅱ（仮称）の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

情報科各科目の項目構成の考え方

項目(1)

- ・情報社会との関わりについて考える
- ・問題の発見・解決に情報技術を活用することの有用性について考える

※項目(2)～(4)の導入として位置付ける

項目(2)～(4)

- ・コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用に関する内容、コミュニケーションのための情報技術の活用に関する内容、データを活用するための情報技術の活用に関する内容で構成する

- ①(各項目に応じた)情報、情報技術や問題解決の手法等を理解する
- ②問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善する

※②においては、①において習得した知識の概念化を図るほか、問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上、情報社会に参画する態度の育成を図る

※主として②において、情報科における「見方・考え方」を働かせるとともに成長させる

※必ずしも①、②の順に学習するものではなく、「情報科の学習過程のイメージ(案)」に示すように、学びのつながりと広がりとを意図して、情報や情報技術等に関する知識の習得と、それらの知識の問題発見・解決への活用を並行して行うことも考えられる

⑭主として専門学科において開設される各教科・科目

(i) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

(ア) 現行学習指導要領の成果と課題

- 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉からなる職業に関する各教科（以下「職業に関する各教科」という。）においては、各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。
- また、職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携のもと、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。あわせて、職業学科に学んだ生徒の進路が多様であることから、大学等との接続についても重要な課題となっている。

(イ) 課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

- このような中、産業教育全体の目標の考え方については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて、三つの柱に沿って次のように整理した。（別添 15-1，別添 15-2を参照）

職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。

- ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
 - ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
 - ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
- これらを構成する要素のうち、例えば、「倫理観」や「合理的」等は、従来から学習指導要領において明示してきた重要な要素である。一方で、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「社会貢献」、「協働的に取り組む」は、社会や産業における新たな課題の解決に向けて多くの人と協力して挑戦し粘り強く学び続けることや、広い視野でより良い社会の構築に取り組むことが重要であることから明示した。

(ウ) 産業教育における見方・考え方

- また、産業教育の特質に応じ育まれる見方・考え方については、教科ならではの視点や思考の枠組みであり、三つの柱で整理していく資質・能力を育むため、各教科に関連する職業を踏まえて検討を行った。

その結果、職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えることなどに整理した。（別添 15-3 を参照）

- 各教科の目標や見方・考え方については、上記の産業教育全体の目標の考え方や見方・考え方を踏まえ、各産業の特質に応じて整理することが必要である。

(ii) 具体的な改善事項

(ア) 教育課程の構造化

(a) 資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 上記の三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、産業教育において従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。
- このような学習については、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、「計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果をもとに計画を検証する「振り返り」、といった過程に整理した。この過程においては、例えば、「課題の発見」では、学びに向かう力や人間性として、より良い社会の構築に向け課題を発見しようとする態度が、「計画の実施」では、思考力・判断力・表現力として、専門的な知識・技術を活用する力が育まれることが想定される。（別添 15-4 を参照）
- ここで整理した過程はあくまでも例示であり、各過程を行き来して学習活動が行われるものであることに留意する必要があるが、これらの過程において、先述した三つの柱に基づき整理した資質・能力の育成を図ることができる。

(b) 科目構成の構造

- 今回の改訂においては、産業教育で育成する資質・能力を踏まえ、各教科で指導すべき共通の内容を整理し、これを各教科共通の基礎的・基本的な内容として各教科の原則履修科目などの基礎的科目において扱うことが求められる。
- また、産業教育に関する各教科の科目構成については、基礎的科目において各教科に関する基礎的・基本的な内容を理解させ、それを基盤として専門的な学習につなげ、更に「課題研究」等で専門的な知識・技術の深化、総合化を図るという現行の考え方を継続し、改訂を進めることが必要である。

(イ) 教育内容の改善・充実

○ 今回の改訂においては、上記のような資質・能力の育成を前提に、社会や産業の変化の状況等や学校における指導の実情を踏まえて、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応についての視点から改善を図ることが求められる。また、こうした社会や産業の変化の状況等に対応する観点からも、経営等に関する指導についてはより重要となっており、例えば、農林水産業などの各産業においては、経営感覚に優れた次世代の人材の育成に向けた指導の充実などが求められる。

○ 資質・能力の育成に向けた職業に関する各教科の教育内容については、次の方向で改善・充実を図る。

(農業)

○ 安定的な食料生産の必要性や農業のグローバル化への対応など農業を取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

- ・現在の「農業経営、食品産業分野」と「バイオテクノロジー分野」を再構造化し、バイオテクノロジーを含む「農業生産や農業経営の分野」と「食品製造や食品流通の分野」に整理
- ・農業の各分野において、持続可能で多様な環境に対応した学習の充実
- ・農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るための学習の充実
- ・安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実
- ・農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実
- ・農業の持つ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実

(工業)

○ 安全・安心な社会の構築、職業人としての倫理観、環境保全やエネルギーの有効な活用、産業のグローバル競争の激化、情報技術の技術革新の開発が加速することなどを踏まえ、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

- ・工業の各分野で横断的に履修する科目について、知識や技術及び技能の活用に関する学習の充実
- ・技術の高度化や情報技術の発展等への対応に関する学習の充実
- ・環境問題や省エネルギーに対応した学習の充実
- ・グローバルな視点を取り入れた学習の充実
- ・電子機械に関わる知識と技術の活用に関する学習の充実
- ・組込み技術について知識と技術の一体的な習得を図る学習の充実
- ・耐震技術やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習の充実

(商業)

○ 経済のグローバル化，ICTの進歩，観光立国の流れなどを踏まえ，ビジネスを通して，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。

- ・観光に関する知識と技術を習得させ，観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実
- ・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実
- ・マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得
- ・ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実
- ・経済のグローバル化に関する学習の充実
- ・情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実
- ・プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得
- ・情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化

(水産)

○ 水産物の世界的な需要の変化や資源管理，持続可能な海洋利用など水産や海洋を取り巻く状況の変化を踏まえ，水産業や海洋関連産業を通して，地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。

- ・海面の多様な利用を踏まえ，海洋環境基準及び環境保全等に対応した学習の充実
- ・水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応した学習の充実
- ・船舶や企業内における情報セキュリティや，食品の安全に関わる産業としての危機管理に関する学習の充実
- ・水産物・水産加工品の品質管理・衛生管理に関する学習の充実
- ・漁業，水産加工業における基礎的・基本的な経営に関する学習の充実
- ・漁船をはじめとした船員養成の国際基準等に対応した学習の充実

(家庭)

○ 少子高齢化，食育の推進や専門性の高い調理師養成，価値観やライフスタイルの多様化，複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ，生活産業を通して，地域や社会の生活の質の向上を担う職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。

- ・調理師法施行令，調理師法施行規則の改正（平成27年4月1日施行）に伴う科目の再編成
- ・食育の推進等，食に関する学習の充実
- ・子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実
- ・高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実
- ・複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実
- ・生活文化の伝承・創造に関する学習の充実
- ・職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実

(看護)

- 少子高齢化の進行，入院期間の短縮，在宅医療の拡大などを踏まえ，看護を通して，地域や社会の保健医療福祉を支え，人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。
 - ・多職種と連携・協働し，多様な生活の場にいる人々の看護について，専門性の高い実践力を養う学習の充実
 - ・医療安全に関する学習の充実
 - ・各領域における倫理的課題に関する学習の充実

(情報)

- 知識基盤社会の到来，情報社会の進展，高度な情報技術を持つIT人材の需要増大などを踏まえ，情報関連産業を通して，地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。
 - ・情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ，情報の安全を担う能力と態度を育成する学習の一層の充実
 - ・情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ，実際に活用する能力と態度を育成する学習の一層の充実
 - ・システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得
 - ・情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得
 - ・問題解決やプログラミングに関する学習の充実
 - ・統計的手法の活用やデータの分析，活用，表現に関する学習の充実
 - ・データベースの応用技術に関する学習の充実
 - ・ネットワークの設計，構築，運用管理，セキュリティに関する学習の充実
 - ・コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実

(福祉)

- 福祉ニーズの高度化と多様化，倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進，ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ，福祉を通して，人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を育成するため，次のような改善・充実を図る。
 - ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
 - ・福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
 - ・福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
 - ・福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
 - ・福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

(ウ) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(a) 主体的・対話的で深い学びの実現

- 産業教育においては、企業等と連携した商品開発、地域での販売実習、高度熟練技能者による指導など、地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を重視してきた。
- 社会や産業の具体的な課題に取り組むに当たっては、各教科で育まれる見方・考え方を働かせ、より良い製品の製造やサービスの創造等を目指すといった「深い学び」につなげていくことが重要である。「深い学び」を実現する上では、課題の解決を図る学習や臨床の場で実践を行う「課題研究」等の果たす役割が大きい。

また、産業界関係者等との対話、生徒同士の協議等は、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」に、企業等での高度な技術等に触れる体験は、生徒の学ぶ意欲を高める「主体的な学び」につながるものである。これらの学びを実現するためには、地域や産業界等との連携が今後とも重要である。

- 産業教育においては、今後とも地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を充実し、アクティブ・ラーニングの三つの視点から、これらの学習活動を再確認しながら、不断の授業改善に取り組むことが求められる。

(b) 教育環境の充実

(産業界等との連携)

- 地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動は、アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた学びを実現する上でも重要なものであることから、地域や産業界等との連携がより一層求められる。このような連携を促進するためには、各地域の産業教育振興会等と協力して、定期的に学校と産業界等が情報交換を行うとともに、教育委員会、地方公共団体の関係部局、経済団体等が協力し、インターンシップの受入や外部講師の派遣の調整を行うなどといった取組も期待される。

また、(ii) (ア) (b) で述べた職業に関する各教科で指導すべき共通の内容については、より充実した指導を行うため、例えば、関係の団体に働きかけ、校長会等の協力を得ながら副教材を作成することなど、各学校の取組を支援することが期待される。

(中学校や大学等との接続)

- 研修を通じて中学校の教員が職業の多様性や専門高校について理解を深めることや、産業教育フェア等の取組によって、中学生の主体的な進路選択に資するよう、専門高校での学習に対する理解・関心を高めることも求められる。
- 現在実施されている大学入学者選抜は、共通教科を中心としていることが多いため、アドミッションポリシー等に応じ、専門高校での学びを積極的に評価できる入学者選抜の実施の拡大が望まれる。また、農業大学校や職業能力開発大学校などの省庁系大学校等との連携・協力の促進等も求められる。

(教員研修等の充実)

- 教員の資質・能力を向上させるための研修の機会等の充実，大学が教育委員会等と連携した教員養成課程の充実，実務経験が豊富な社会人の活用が求められる。

(実験・実習の環境整備)

- 計画的な施設・設備の改善・充実・更新，生産や販売実習等の学習活動を円滑に実施するための地方公共団体における関係する財務規則等の整理などの環境整備が求められる。

産業教育のイメージ（案）

（高等学校専攻科）

※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程（修業年限1年以上）。

【高等学校】

（産業教育）

- ◎ 職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。
 - ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
 - ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
 - ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

（共通教科）

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要なとされる知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

【義務教育】

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要なとされる基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

職業に関する各教科において育成すべき資質・能力の整理（案）

	知識・技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
産業教育 全体	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
工業	<ul style="list-style-type: none"> 工業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
172 商業	<ul style="list-style-type: none"> 商業の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
水産	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度
看護	<ul style="list-style-type: none"> 看護について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の各分野について(社会的意義や役割を含めて)の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

職業に関する各教科の目標（案）

産業教育全体	<p>◎職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
農業	<p>◎農業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、農業や農業関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 農業の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
工業	<p>◎工業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 工業の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
商業	<p>◎商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 商業の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
水産	<p>◎水産の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 水産や海洋の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
家庭	<p>◎生活産業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、生活産業を通じ、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 生活産業について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
看護	<p>◎看護の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、看護を通じ、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 看護について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
情報	<p>◎情報の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、情報関連産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 情報の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
福祉	<p>◎福祉の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none">① 福祉の各分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。② 福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

<p>産業教育 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えること
<p>農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産や農業経営の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農産物の加工や食品流通の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農地や森林の保全、環境修復・再生の視点から農業や関連産業を捉え、地域の環境創造に向けて考えること ・農業生物や地域資源の活用の視点から農業や関連産業を捉え、地域創造と生活の質的向上に向けて考えること
<p>工業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な製品を提供する視点からものづくりを捉え、新たな次代を切り拓く付加価値の高い創造的な製品の開発を目指して、製造現場における合理的なものづくりの方策の活用に向けて考えること ・工業の各分野で情報化が図られている視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、高度に発展する情報技術の有効な活用に向けて考えること ・持続可能な社会の構築の視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、資源・エネルギーの有効活用、環境保全に向けて考えること
<p>商業 174</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの視点から企業活動を捉え、顧客満足の実現と顧客の創造に向けて考えること ・マネジメントの視点から企業活動を捉え、経済社会の動向や法令等を踏まえた適切な意思決定に向けて考えること ・会計の視点から企業活動を捉え、適切な会計情報の提供及び効果的な会計情報の活用に向けて考えること ・ビジネスに関する情報の視点から企業活動を捉え、情報の適切な処理及び情報や情報通信技術の効果的な活用に向けて考えること
<p>水産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境や資源等に配慮した安全で経済的な漁業や船舶運航の実現に向けて考えること ・船舶や海洋関連機器などの海洋工学の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境に配慮した安全で経済的なマリンエンジニアリングの実現に向けて考えること ・海上における情報通信の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、セキュリティを考慮した円滑な通信業務の実現に向けて考えること ・栽培漁業などの生物生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、生態系や環境に配慮した安全で経済的な養殖業の実現に向けて考えること ・水産食品の製造や流通の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、品質管理・衛生管理を考慮した安全で経済的な水産食品の持続的な供給に向けて考えること
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かに支える視点から、衣食住、ヒューマンサービス等に係る生活産業等を捉え、協力・協働、健康・快適・安全な生活の創造、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築に向けて考えること
<p>看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の視点から健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考えること
<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの設計・管理の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なシステムを構築することを目指して、情報セキュリティを保ちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること ・情報コンテンツの制作・発信の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なコンテンツを制作することを目指して、情報セキュリティを保ちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること
<p>福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の視点から生活に関わる問題を捉え、人間としての尊厳の保持と自立支援の在り方について、当事者の考えや制約を踏まえて考えること

他者への働きかけ、他者との協働、外部との相互作用

課題発見・
解決のプロセス

課題の発見

解決すべき職業に関する課題を把握する

課題解決の方向性の検討

関係する情報を収集する。予想し仮説を立てる

計画の立案

計画を立案する

計画の実施

計画に基づき解決策を実践する

振り返り

結果をもとに計画を検証する

次の課題発見へ

知識・
技術

・課題の発見、計画の立案・実施の基となる専門的な知識・技術の習得

・専門的な知識・技術の定着

判断・
思考・
表現

・職業の視点から解決すべき課題の発見

・職業人としての倫理観に基づく合理的かつ創造的な解決策の考察・決定
・関係者への説明や意見交換

・計画の実施に当たった専門的な知識・技術の活用

・より合理的かつ創造的な改善策の考察

情意・
態度

・より良い社会の構築に向け課題を発見しようとする態度

・主体的かつ協働的に課題に取り組もうとする態度

・学習したことを次の学びや社会・産業の発展に生かそうとする態度

* 上記のプロセスや評価場面は例示であり、これらに限定されたり、全ての機会において評価を行ったりすることが必ずしも求められるものではない。

⑮道徳教育

※考える道徳への転換に向けたワーキンググループにおいて検討中

⑩特別活動

(i) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた特別活動の目標の在り方

(ア) 現行学習指導要領の成果と課題

- 特別活動は、学級活動・ホームルーム活動，児童会活動・生徒会活動，クラブ活動，学校行事から構成され，それぞれ構成の異なる集団での活動を通して，児童生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育む活動として機能してきた。
- 特別活動は（望ましい）集団活動を通じて行われるという特質があり，各活動及び学校行事を通じて，協働性や異質なものを認め合う土壌を育むなど，生活集団，学習集団として機能するための基盤が創られている。さらに，特別活動のもつ生徒指導の機能，ガイダンスの機能等が，それらを強固なものにすることに寄与している。
- このことは，全国学力・学習状況調査の質問紙調査において，「学級会などの時間に友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めていると思う」と肯定的に回答している児童生徒の方が，全ての教科で平均正答率が高い傾向にあることから見て取れる。
- 特別活動における集団活動は，集団への所属感，連帯感を育み，それが学級文化，学校文化の醸成へとつながり，各学校の特色ある教育活動の展開を可能としており，このような特別活動は，我が国の教育課程の特徴として，海外からも高い評価を受けている。
- 一方で，更なる充実が期待される今後の課題は，概ね以下のような点である。

①育成すべき資質・能力の視点

特別活動においては，「なすことによって学ぶ」ということが重視され，各学校で特色ある取組が進められている一方で，各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか，どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。特別活動の時間において育成する資質・能力だけでなく，特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり，教育課程全体における特別活動の役割，機能も明らかにする必要がある。

②学習指導要領における内容の示し方の視点

これまで，各活動の内容や指導のプロセスについて構造的な整理が必ずしもなされておらず，各活動等の関係性や意義，役割の整理が十分でないまま実践が行われてきたという実態も見られる。特に中学校・高等学校の学級活動・ホームルーム活動の内容項目が多いことが，学級・ホームルームの課題を自分たちで見出して解決に向けて話合う活動が深まらない要因の一つとなっていると考えられる。

③複雑で変化の激しい社会の中で求められる能力を育成するという視点

社会参画の意識の低さが課題となる中で，自治的能力を育むことがこれまで以上に求められている。また，キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果

たす役割への期待も大きい。このほか、防災を含む安全教育、体験活動など、社会の変化や要請も視野に入れ、各教科等の学習と関連付けながら、特別活動において育成すべき資質・能力を示す必要がある。

(イ) 課題を踏まえた特別活動の目標の在り方

- 特別活動において育成すべき資質・能力について、幼児教育や他教科等との関係性も意識しつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という3つの視点を手掛かりとしながら、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力や人間性等」の3つの柱に沿って別添16-1のとおり整理を行った。これら育成すべき資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校の系統性を考慮して特別活動の目標を示す必要がある。(別添16-2を参照)
- これまでの特別活動の目標では、特別活動の特質を「望ましい集団活動を通して」という点においてきた。この「望ましい集団活動を通して」とは、一人一人の児童生徒が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができるような実践的な方法で集団活動を行ったり、望ましい集団を育成しながら個々の児童生徒に育てたい資質や能力を育成したりするという特別活動の方法原理を示したものであるが、「望ましい」ということが、学習のプロセスというよりは目標を示しているような印象や、あらかじめ望ましい集団があることが学習の前提となっているかのような誤解を与える可能性があるため、今後その要素を具体的に目標の中に示すこととする。
- 特別活動は、教育課程全体の中で、①特別活動の各活動において資質・能力を育む役割だけでなく、②学級活動を通じて学級経営の充実が図られ、学びに向かう学習集団を形成することや、各教科等において育まれる見方・考え方を特別活動の中で実践的な文脈で用いることによって、各教科におけるより主体的・対話的で深い学びの実現に寄与する役割や ③教育課程外も含め学級・学校文化の形成等を通じて学校全体の目標の実現につなげていく役割を担っており、これらをバランスよく果たすことが求められる。

(ウ) 特別活動における見方・考え方

- 特別活動とは、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。その活動の範囲は学年・学校段階が上がるにつれて広がりを持っていき、社会に出た後の様々な集団や人間関係の中でその資質・能力は生かされていくことになる。
- また、実生活の課題を解決するために、互いのよさや可能性を発揮できるような様々な集団活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間であるとともに、特別活動の学びが各教科等の学習を行う上での土台となるといった各教科等と往還的な関係にあるとすることができる。
- このような特別活動の特質を踏まえつつ、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の3つの視点を手掛かりとして、特別活動の「見方・考え方」は、「各教科等の

特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること」と整理した。

(ii) 具体的な改善事項

(ア) 教育課程の構造化

(a) 資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 特別活動の特質に鑑みれば、「決めたことの実践」が重要であることはいうまでもないが、特別活動において育成すべき資質・能力は、実践も含めた全体の学習過程の中で育まれるものである。例えば、学級活動・ホームルーム活動においては「問題の発見・確認」、「解決方法の話合い」、「解決方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」といった学習過程を示している。(別添 16-3 を参照)
- 集団活動の中で、多くの生徒が役割を経験することが重要である。役割を果たす中で主体的に思考・判断・表現し、自己有用感を育むとともに、役割を決め、その責任を果たそうとする過程自体が、自治的能力や、主権者として積極的に社会参画する力を育成することになる。
- また、特別活動においては、休み時間や給食の時間、放課後等を含めた学校教育全体を見渡して、教員が意図的、計画的に指導を行うことも大変重要である。

(b) 指導内容の示し方の構造

(学級活動・ホームルーム活動の内容)

- 学級活動・ホームルーム活動について、内容項目ごとに育成すべき資質・能力とそのため重視する学習過程を明確にして、特に自治的能力の育成を重視し、課題の発見を含めて児童生徒主体の話合いを通じて行うことが改めて明確となるようにする。
- 総則において学級(ホームルーム)経営に関して明示することに対応し、学級活動・ホームルーム活動の(1)を中心に学級経営との関連を図ることを示すことが必要である。
- また、小・中・高等学校を通じて育成すべき資質・能力の観点から、以下のように系統性が明確になるよう構造を整理する。
 - ・小学校の学級活動の内容に(3)を設け、キャリア教育の観点からの小・中・高等学校のつながりが明確になるよう整理すること
 - ・中学校、高等学校において、与えられた課題ではなく学級・ホームルーム生活における課題を自分たちで見出して解決に向けて話し合う活動として(1)の内容を重視する観点から、(2)(3)の内容を整理すること

○ これらを踏まえ、小・中・高の学級活動・ホームルーム活動の構成は、以下のような構成とする。

①学級・ホームルームや学校における集団生活の創造，参画（仮）

主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり，集団としての議題の選定や話し合い，合意形成とそれに基づく実践を大事にする活動。日々の学級経営との関連を図る。

②一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）

主として個人が現在直面する生活における適応や成長，自律等に関わる内容であり，一人一人の理解や自覚，意思決定とそれに基づく実践等を大事にする活動。最終的には一人一人が意思決定を行い実践するが，話し合いを生かして考えを深めることを重視する。関係する教科，個別の生徒指導等との関連を図る。

③一人一人のキャリア形成と実現（仮）

主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり，一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに，個に応じた学習の指導・援助や，個別の進路相談等との関連を図る。

○ 上記のように，構成の大枠は小中高の系統が明らかになるよう整理しつつ，それぞれの具体的な内容や示し方は，総則や各教科等の学習内容との関係も踏まえながら，各学校段階にふさわしいものとする必要がある。

（児童会活動・生徒会活動，クラブ活動，学校行事）

○ 児童会活動・生徒会活動，クラブ活動，学校行事においても，それぞれの活動を通して，育成すべき資質・能力を明確化する方向で目標及び内容の示し方を改める必要がある。各学校において，各活動等を通じて育成する資質・能力と，その実現に必要な活動内容を十分考慮し，必要かつ適切な時間数を確保することが必要である。

○ 特にクラブ活動については，一時間一時間の活動を楽しむということだけではなく，全員にとって楽しいものとなるよう話し合っ実践したり，役割や責任を果たしたり，目標を持って参加したりすることで資質・能力の育成につながるよう，年間を通して適切な時間を確保することが望まれる。

○また，特に小学校・中学校については，地域により学校の規模その他の事情が様々であることに留意して，必要に応じて重点化を図ることも示す。

（イ）教育内容の改善・充実

○ 主権者教育の視点として，多様な他者と協働しながら，地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり，社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる。学級会・ホームルーム活動における自治的能力を育成する様々な活動，児童会・生徒会における役員選挙や総会，委員会活動や，クラブ活動の計画的な運営など，自治

的な活動を実践的に学ぶ場面などについて、社会科や公民科との関連も図りつつ、その一層の充実を図ることが求められる。

- キャリア教育は、小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むものであるが、狭義の「進路指導」との混同により、中学校・高等学校においては、入学試験や就職活動があることから本来の趣旨を矮小化した取組になっていたり、職業に関する理解を目的とした活動だけに目が行きがちになったり、小学校では特別活動において進路に関する内容が存在しないため体系的に行われてこなかったりしている実態がある。キャリア教育本来の役割を改めて明確にするためにも、小学校段階から特別活動の中にキャリア教育の視点を入れていくことが重要である。
- 防災を含む安全教育について、特別活動は、学級活動における「安全な生活態度の形成」や学校行事における避難訓練などの活動を行うことだけでなく、各教科における学びと日常生活をつなぐ重要な役割を果たす。また、特別活動で育む自立した生活を営むことや、ともに助け合う力、社会参画の力は、安全に生きていくために求められる「自助」「共助」「公助」につながっていく。安全に関して育成すべき資質・能力の議論を踏まえつつ、こうした取組の充実を図ることが求められる。
- 前回改訂で充実が図られた、食育の観点を踏まえた学校給食と食習慣の形成は引き続き重要であり、各学校の実態に応じて効果的な指導が行われることが望ましい。
- 自然の中で生活をともにする集団宿泊活動については引き続き重要である。育成したい資質・能力を明確にし、青少年教育施設の指導員等とねらいや活動について共有することが重要である。より効果的な活動とするために各教科の年間計画と関連を図って学びを深いものとしたり、「イングリッシュ・キャンプ」「通学合宿」などを行ったりするなどの工夫を行い、より長期間の活動とすることも考えられる。
- 学級・学校の中にいる児童生徒一人一人の個性を尊重し、障害の有無や国籍など様々な違いに関わらず協働していく力を育むこと、地域の高齢者や障害者、外国出身者など様々な人との交流を通じて学ぶことも重要である。
- 情報活用能力の育成という視点からは、学級活動等における問題の発見や確認などを行う際に情報を収集・整理することや、学校図書館の利用なども重要である。また、クラブ活動の中にプログラミングを体験する学習を取り入れることも考えられる。

(ウ) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(a) 主体的・対話的で深い学びの実現

- 特別活動は、児童生徒同士の話し合い活動や、児童生徒の自主的・実践的な活動をその特質としている。主体的・対話的で深い学びを実現する視点から授業改善を行うことは、特別活動の本質に関わるものであり、これまでも重要と考えられてきたことにつながるものである。

①「深い学び」の視点

特別活動が重視している「実践」を、単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の過程を「実践」と捉え、一連のプロセスの中で、見方・考え方を働かせ育成すべき資質・能力は何なのかということを確認にした上で、意図的・計画的に指導に当たることが求められる。

②「対話的な学び」の視点

特別活動は多様な他者との集団活動を基本とし、これまでも「話し合い」をすべての活動の中で重視してきた。集団活動を行う上で合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ、自分の考えを広げたり、課題について多面的・多角的に考えたりすることが可能となる。また、異年齢の子供や障害のある児童生徒等多様な他者と対話しながら協働すること、地域の人との交流の中で考えを広めたり自己肯定感を高めたりすること、自然体験活動を通じて自然と向き合い日頃得られない気付きを得ること、キャリア形成に関する自分自身の意思決定の過程において他の児童生徒や教員等との対話を通じて考えを深めることなども重要である。

③「主体的な学び」の視点

特別活動においては、学級や学校の実際の集団生活の中から課題を見出すことに特質がある。集団生活をよりよくしていくためには何に取り組んだらよいのかということを中心に主体的に見いだしたり、活動を振り返り、よい点や改善点を見付け出すことによって、新たな課題の発見、設定をすることが可能となりそれが次なる動機となったりする。こうした課題の設定や振り返りといった学習のプロセスを意識して、そこで育成すべき資質・能力を明確にすることが求められる。

(b) 教材や教育環境の充実

- 教育課程全体で行うキャリア教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリアパスポート（仮称）」）を作成することが求められる。特別活動を中心としつつ各教科等と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために活用できるものとなることが期待される。将来的には個人情報保護に留意しつつ電子化して活用することも含め検討することが必要である。
- 特別活動に関する指導力は、免許状がないこと等から専門性という点で軽く見られがちであるが、本来、小・中・高等学校のすべての教員に求められる最も基本的な専門性の一つである。教員養成段階で、特別活動の意義や学校の教育活動全体における役割、指導方法等の本質をしっかりと学ぶようにすることが必要である。また、国や都道府県等による取組状況の共有などを行う研修や、研究団体等による指導方法等の研究及びその普及が強く求められる。

- 特別活動の充実を図るためには、「チームとしての学校」の視点で、教員以外の養護教諭、栄養教諭・学校栄養職員、司書教諭・学校司書などの専門性を生かしながら学校全体で取り組むとともに、学校外の専門家等の協力を得ることが重要である。
- 地域との連携・協働に当たり、活動を通して育てたい資質・能力を地域と共有することが必要である。子供たちが地域の行事への参加、地域の課題解決に向けて取り組むなど大きな役割を果たすことにより、資質・能力を生きて働くものとして成長させたり、学習意欲、自己肯定感を醸成させたりするとともに、地域教育力の向上、地域の活性化、学校との信頼関係構築にもつながる。コミュニティ・スクールの枠組みの積極的な活用、教育委員会と首長部局との連携も重要である。
- また、自主的な学習を深める場としての学校図書館の整備充実、小・中・高等学校の学校間の連携、家庭との連携や様々な家庭状況への配慮、小規模校における教育効果を高める工夫などの取組も重要である。

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校	<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</p> <p>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</p>	<p>所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</p>	<p>自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</p>
184 中学校	<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</p> <p>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</p>	<p>所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</p>	<p>自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</p>
小学校	<p>多様な他者と協働する様々な集団活動の意義の理解。</p> <p>様々な集団活動を実践する上で必要となることの理解や技能。</p>	<p>所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができる。</p>	<p>自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度。</p>

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、**よりよい人間関係の形成**、**よりよい集団生活の構築**や**社会への参画**及び**自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること

特別活動における自主的・実践的な活動や生徒指導の機能、ガイダンスの機能が学級生活の基盤、学校生活の基盤をつくる

【高等学校】

集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら葛藤や問題解決を繰り返すことを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団が生活や社会をよりよく形成しようとしたり、人間としての在り方生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

【中学校】

集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら直面する課題を解決することを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
 多様な他者と協働するの様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
 理解する。
 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活や**社会**をよりよく形成しようとしたり、**人間として**の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

【小学校】

集団や社会の形成者として、特別活動の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて、**様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を改善することを通して**、次のとおり資質・能力を育成する。
 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、そうした実践をする上で必要となることを理解し技能を身に付ける。
 所属する様々な集団や自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく構築したりすることができるようにする。
 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かし、人間関係をよりよく構築しようとしたり、集団生活をよりよく形成しようとしたり、自己の生き方についての考えを深め自己の実現を図ろうとしたりする態度を育てる。

↑ 生活範囲や人間関係の多様性の広がり

集団活動を通じた学級・学校文化の創造

学校の教育目標

各教科等

学級経営の充実を図る特別活動の役割や学びに向かう学習集団の形成への寄与により、各教科等における主体的な学び、協働的な学びがより充実する。特別活動において各教科等における見方や考え方を効果的に活用することによって、より実践的な文脈で見方や考え方を考えることができるようになるなど、教科等の見方や考え方が成長し、「深い学び」が実現する。

【幼児教育】

【健康な心と体】

・幼稚園生活の中で満足感や充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していけるようになる。

【自立心】

・自分の力で行うために思いを巡らし、自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げることで満足感や達成感を味わいながら、自信を持って行動するようになる。

【協同性】

・友達との関わりを通じて、互いの思いや考えなどを共有し、実現に向けて、工夫したり、協働したりする充実感を味わいながらやり遂げるようになる。

【道徳性・規範意識の芽生え】

・よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。

【社会生活との関わり】

・家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層の親しみを持つようになる。
 ・情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、社会全体とのつながりの意識等が芽生えるようになる。

【思考力の芽生え】

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、よりよいものにするようになる。

【自然との関わり・生命尊重】

・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
 ・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にする気持ちを持つようになる。

学級(ホームルーム)活動

①問題の発見・確認

活動内容	(i)学級や学校における生活の諸問題に気付き、その中から議題を学級全員で決定する。話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。 (ii)日常生活や自己の課題、目標、学業や進路に関する内容について、教師が設定した課題を確認し、解決の見通しをもつ。
資質・能力 (例)	○:情報の収集・整理などを通し、学級や学校生活、地域・社会の課題を発見する力 □:自己の課題に気づく力、自己の適性を把握する力 □:目標を設定する力

②解決方法の話し合い

活動内容	(i)よりよい生活をつくるための問題の原因や具体的な解決方法、役割分担などについて話し合う。 (ii)設定された課題の状況や自分の問題の状況を把握し、原因や具体的な解決方法などについて話し合う。
資質・能力 (例)	○:集団活動における自己の役割やその意義についての理解 ○:協働して問題を解決しようとする態度 □:生活を改善したり、将来を見通して自己の生き方を選択したりできる力

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

次の課題解決へ

活動内容	実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、結果を分析し次の課題解決に生かす。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。
資質・能力 (例)	○:希望や目標をもって現在の生活を改善しようとする態度 ○:よりよい生活をつくらうとする態度 □:学級や学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度 □:自己を生かせる生き方や職業を主体的に選択しようとする態度

④決めたことの実践

活動内容	決定した解決方法や活動内容を責任をもって実践する。
資質・能力 (例)	○:合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力 ○:課題解決に向かおうとする情意や態度 ○:よりよい生活をつくらうとする態度 □:日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力

③解決方法の決定

活動内容	話し合い活動で具体化された解決方法等の中から合意形成を図ったり、意思決定したりする。
資質・能力 (例)	○:合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力 ○:課題解決に向かおうとする情意や態度 ○:よりよい生活をつくらうとする態度 □:日常の生活を改善する力、自己の在り方を改善することができる力、意志決定する力

※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

※実践の場合は、休み時間や給食の時間、放課後など、必ずしも特別活動の時間とは限らない。

特別活動における児童(生徒)会活動の学習過程のイメージ(案)

児童会(生徒会)活動

①問題の発見・確認、議題の設定

活動内容

児童会、生徒会、各種委員会等における役割の決定及び選定(互選や選挙)
 代表委員会、生徒評議会:学校における問題の発見・確認
 各種委員会:所属する委員会の所掌の範囲内における学校の問題の発見・確認
 生徒総会(中学校、高等学校のみ):学校の取組に関する計画の設定及び報告等、議題の提示

資質・能力
(例)

- :情報の収集・整理などを通し、学校、地域・社会の課題を発見する力
- :学校や地域・社会の形成者として、よりよい生活をつくろうとする態度
- :目標を設定する力

②解決に向けての話合い

発見した問題の解決の方向性や解決方法、役割分担などについて話し合う
 生徒総会:議題に関する解決方法についての説明

- :集団活動における自己の役割やその意義についての理解
- :よりよい生活をつくろうとする態度
- :協働して問題を解決しようとする態度

◇:よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

実践を定期的に振り返り、意識化を図るとともに、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。結果を分析し次の課題解決に生かす。

- :よりよい生活をつくろうとする態度
- :問題を解決し、よりよい生活を作ろうとする態度
- :学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度

④決めたことの実践

解決方法や活動内容について、各学級や各委員会への周知等、解決方法の実践
 生徒総会:議決された事項について実践

- :合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力
- :課題解決に向かおうとする情意や態度
- :よりよい生活をつくろうとする態度
- :集団活動における自己の役割やその意義についての理解

③解決方法の決定

解決方法や活動内容についての合意形成
 生徒総会:解決方法への賛否の表明、議決

次の課題解決へ

※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動におけるクラブ活動の学習過程のイメージ(案)

クラブ活動

①クラブ活動の設置

活動内容

自分の興味・関心に基づき、新たに作り
たいクラブを提案する。
※提案等に基づきクラブを設置する。

資質・能力
(例)

○: 発意、発想を生かそうとする態度
□: 学校生活の中で自分のよさや可能性
を生かそうとする態度

②クラブへの所属

自分の希望により、所属するクラブを決定する。

○: 発意、発想を生かそうとする態度
□: 学校生活の中で自分のよさや可能性を生か
そうとする態度

③計画や運営についての話し合い

クラブの目当てや自分の目当てを話し合う。
発意・発想を生かして、クラブの内容や活動計画につ
いて話し合う。
役割分担を行う。

○: 多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を
図ろうとする態度
□見通しをもって活動できるようにする

◇: よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

活動を振り返り、次の活動に生かす。

○: よりよい生活をつくろうとする態度
□: 学校の中で自分のよさや可能性を生かそう
とする態度

④クラブの活動や成果の発表

クラブの活動を通して共通の興味・関心を追求する。
年間の活動内容や成果の発表をする。
※異学年の児童と協力して活動する。
※計画的・継続的に実施する。

○: 合意形成を図る力、責任ある行動をとることができる力。
○: よりよい生活を協働してつくろうとする態度。
○: 自己の役割や責任を進んで果たすことができる力

③計画や運営方針の決定

合意形成を図り、クラブの内容や計画、役割を
決める。クラブの目当てや自分の目当てを決
める。

次年度
の活動に
興味・関心
の追求
に生かす

※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動における学校行事の学習過程のイメージ(案)

学校行事

①行事の意義の理解

活動内容

各行事(儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事、遠足・集团的行事、勤労生産・奉仕的行事)の意義の理解。
現状の把握、課題の確認、目標の設定を行う。

資質・能力
(例)

- : 学校生活の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度
- : 所属感、連帯感

②計画や目標についての話し合い

各行事について活動目標、計画、内容、役割分担などについて話し合う。

- : 多様な他者の意見を尊重し、進んで合意形成を図ろうとする態度
- : 所属感、連帯感

◇: よりよい人間関係を育むための思考力・判断力・表現力など

⑤振り返り

活動を振り返り、まとめたり発表し合ったりする。実践の継続や新たな課題の発見につなげる。結果を分析し次の行事や次年度の行事に生かす

- : よりよい生活をつくらうとする態度
- : 所属感、連帯感、達成感
- : 学校の中で自分のよさや可能性を生かそうとする態度

④体験的な活動の実践

他者と力を合わせて実践する。
※行事により、児童会、生徒会活動と連携を図るなど、自主的に運営する。

- : 合意形成を図る力
- : 自己の役割や責任を進んで果たすことができる力
- : 仲間とやり遂げることによる所属感、連帯感、達成感
- : 自己有用感、困難な課題に挑む意欲、向上心
- : 忍耐力、精神力

③活動目標や活動内容の決定

活動目標や計画、内容について合意形成を図る。

次の活動や課題解決へ

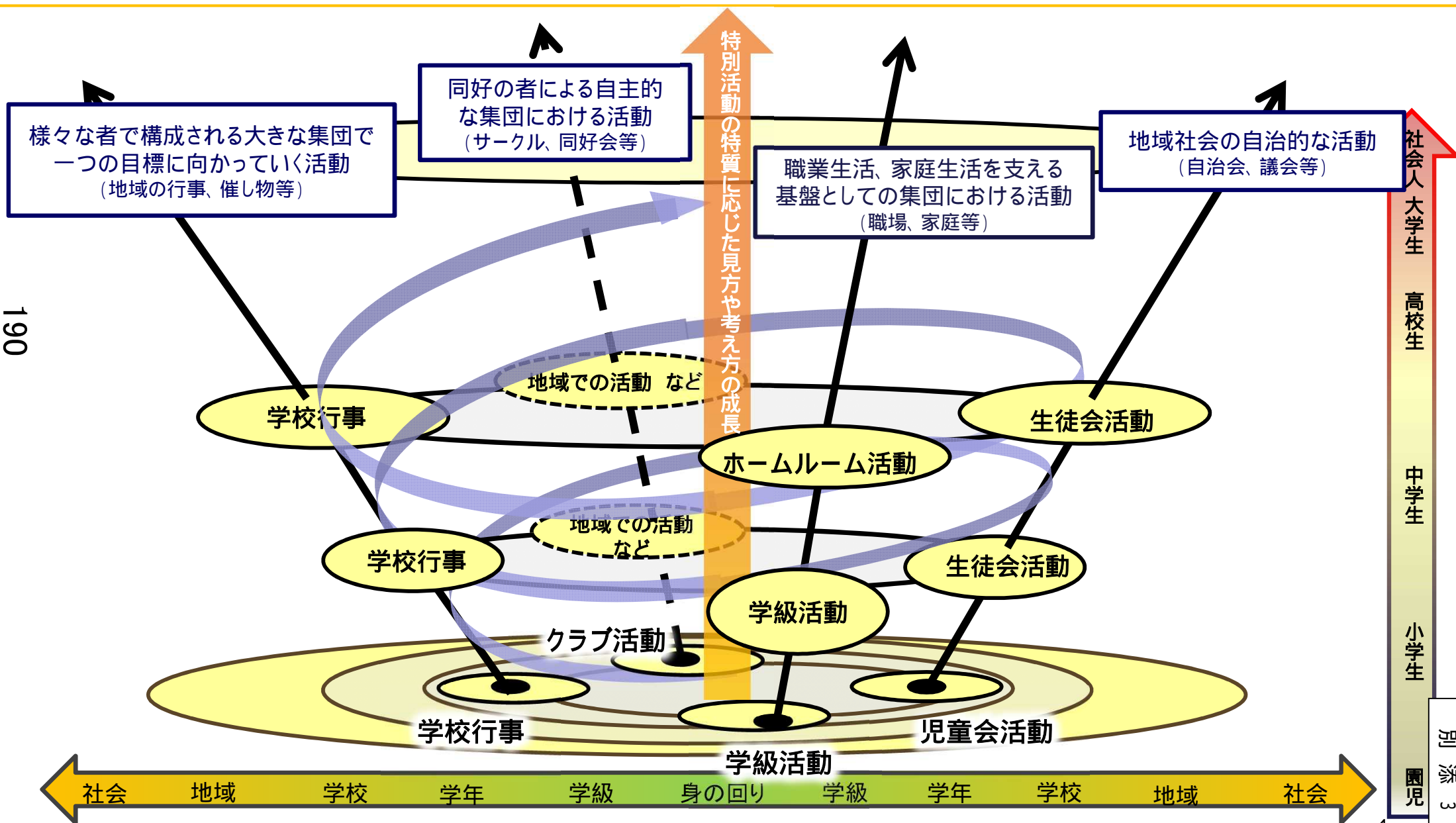
※特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点…◇:人間関係形成、○:社会参画、□:自己実現

※本プロセスは例であり、活動の順序が入れ替わったり、一体化したり、重点的に行われたり、一連の過程がより大きな過程の一部になったりする。

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ案)

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、**集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現**の視点からその問題を解決するために考えること



特別活動において育成すべき資質・能力の視点について(案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料2

育成すべき資質・能力の視点

人間関係形成

社会参画

自己実現

社会参画

自己実現

191
集団・社会

自己

他者

人間関係形成

発達の段階に応じて、集団や社会の範囲が拡大し、他者が多様化し、扱う問題が高度化する。また、様々な場面において、強い意志や忍耐力、想定外のことに対応する力などが求められることとなる。

191

- ・よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画する力及び諸問題を解決しようとする力。
- ・集団の中において、個人が集団へ寄与する中で育まれるものと考えられる。

- ・集団の中で、自己の生活の課題を発見しよりよく改善する力や自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力。自己の在り方生き方を考え設計する力。
- ・集団の中において、個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる問題を考察する中で育まれるものと考えられる。

- ・集団の中で、よりよい人間関係を自主的、実践的に形成する力。
- ・集団の中において、個人対個人という関係性の中で育まれるものと考えられる。

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点

□人間関係形成
○社会参画
◇自己実現

現行の小学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

（1）学級や学校の生活づくり

- ◇○□ ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- ◇○□ イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ◇○□ ウ 学校における多様な集団の生活の向上

（2）日常の生活や学習への適応及び健康安全

- ◇○□ ア 希望や目標をもって生きる態度の形成
- ◇○□ イ 基本的な生活習慣の形成
- ◇○□ ウ 望ましい人間関係の形成
- ◇○□ エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解
- ◇○□ オ 学校図書館の利用
- ◇◇□ カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- ◇○□ キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点（例）

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

多様性を尊重する社会の視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

キャリア形成の視点

主体的な学びの視点

心身の健康、安全・防災の視点

食育の視点

改善のイメージ案

（1）学級や学校における集団生活の創造、実現（仮）
⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成（集団決定）とそれに基づく実践を大事にする活動。

例）学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりや役割分担、学校における多様な集団生活の向上など集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※日々の学級経営との関連を図る

（2）一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現（仮）
⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定（自己決定）とそれに基づく実践等を大事にする活動。

例）希望や目標の設定、基本的な生活習慣や健康で安全な生活態度の形成、食育の観点を踏まえた学校給食や望ましい食習慣の形成、当番活動や働くことの意義の理解、学校図書館の利用など、一人一人の児童の学校生活や学習への適応及び健康安全に関する内容

※関係する教科、個別の生徒指導等との関連を図る

（3）一人一人のキャリア形成と実現（仮）
⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

中学校特別活動の内容の構成（学級活動）について（イメージ案）

（学級活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の中学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

(1) 学級や学校の生活づくり

- ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決
- イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

(2) 適応と成長及び健康安全

- ア 思春期の不安や悩みとその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会の一員としての自覚と責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ 望ましい人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参加
- キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
- ク 性的な発達への対応
- ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
- エ 望ましい勤労観・職業観の形成
- オ 主体的な進路の選択と将来設計

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

学級経営と関連する視点

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路指導と関連する視点

改善のイメージ案

(1) 学級や学校における集団生活の創造、参画(仮)
 ⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成(集団決定)とそれに基づく実践を大事にする活動。

例) 学校における多様な集団生活の向上、学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容

※日々の学級経営との関連を図る

(2) 一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)
 ⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事にする活動。

例) 男女相互の理解と協力などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や、思春期の不安や悩みの解決や性的な発達への対応、食育の視点や学校給食、食習慣の形成など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容

※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

(3) 一人一人のキャリア形成と実現(仮)
 ⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成を含むなど、自己のキャリア形成と実現に関する内容

* 高等学校においては、社会的移行への対応を含む

※個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る

高等学校特別活動の内容の構成（ホームルーム活動）について

（ホームルーム活動の改善の方向性）

特別活動で育成すべき資質・能力の3つの視点（人間関係形成、社会参画、自己実現）や、総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点など、教育課程全体における特別活動の役割も踏まえて、各活動の内容構成の構造を整理し、趣旨を明確化する

3つの視点



現行の高等学校学習指導要領（特別活動）

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学級活動〕

(1) ホームルームや学校の生活づくり

- ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決
- イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動
- ウ 学校における多様な集団の生活の向上

総則の構成や社会の要請などを踏まえて整理すべき視点(例)

社会参画・自治の視点

ホームルーム経営と関連する視点

(2) 適応と成長及び健康安全

- ア 青年期の悩みや課題とその解決
- イ 自己及び他者の個性の理解と尊重
- ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任
- エ 男女相互の理解と協力
- オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立
- カ ボランティア活動の意義の理解と参画
- キ 国際理解と国際交流
- ク 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立
- ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立

生活指導、生徒指導と関連する視点

学校段階間の接続の視点

多様性を尊重する社会の視点

社会参画の視点

心身の健康、安全・防災等の視点

(3) 学業と進路

- ア 学ぶことと働くことの意義の理解
- イ 主体的な学習態度の形成と学校図書館の利用
- ウ 教科・科目の適切な選択
- エ 進路適性の理解と進路情報の活用
- オ 望ましい勤労観・職業観の確立
- カ 主体的な進路の選択決定と将来設計

食育の視点

主体的な学びの視点

キャリア形成の視点

個に応じた学習の支援や進路指導と関連する視点

改善のイメージ案

(1) ホームルームや学校における集団生活の創造、参画(仮)
⇒主として自発的・自治的な集団活動の形成や運営に関わる内容であり、集団としての議題の選定や話し合い、合意形成(集団決定)とそれに基づく実践を大事にする活動。

例) 学校における多様な集団生活の向上、ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、ホームルーム内の組織づくりと役割分担など、校内におけるよりよい集団生活の形成や運営、向上に関する内容
※日々のホームルーム経営との関連を図る

(2) 一人一人の適応や成長及び健康安全な生活の実現(仮)
⇒主として個人が現在直面する生活における適応や成長、自律等に関わる内容であり、一人一人の理解や自覚、意思決定(自己決定)とそれに基づく実践等を大事にする活動。

例) 男女相互の理解と協力やコミュニケーション能力の育成、国際理解・国際交流などの多様性を尊重した望ましい人間関係の形成や社会参画、青年期の不安や悩みとその解決、心身の健康と健全な生活態度、生命の尊重と安全な生活態度、規律ある習慣の確立など、生徒個人の適応や成長及び健康安全に関する内容
※関係教科、個別の生活指導や生徒指導との関連を図る

(3) 一人一人のキャリア形成と実現(仮)
⇒主として将来に向けた自己の実現に関わる内容であり、一人一人の主体的な意思決定を大事にする活動。教育課程全体を通して行うキャリア教育との関連を図るとともに、個に応じた学習の指導・援助や、個別の進路相談等との関連を図る。

例) 学校図書館の利用など、学びと社会生活・職業生活の接続と振り返り(ポートフォリオ)、ボランティア活動の充実や勤労観・職業感の育成、社会的移行への対応など、自己のキャリア形成と実現に関する内容
※個に応じた学習の支援や進路指導との関連を図る

各項目と3つの視点との関係は、主として指導にあたって特に意識すべきと考えられる視点を強調して示しているが、それ以外の視点とも相互に関わりあっている。

⑰総合的な学習の時間

(i) 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた総合的な学習の時間の目標の在り方

(ア) 現行学習指導要領の成果と課題

- 総合的な学習の時間は、学校が地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習など創意工夫を生かした教育活動を行うこととしている。
- 現行学習指導要領では、総合的な学習の時間を、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習とすることと同時に、探究的な学習や協同的な学習とすることが重要であることを明示した。特に、探究的な学習を実現するため、「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」の探究のプロセスを明示し、学習活動を発展的に繰り返していくことを重視した。
- 成果としては、全国学力・学習状況調査の分析等において、総合的な学習の時間で探究のプロセスを意識した学習活動に取り組んでいる児童・生徒ほど各教科の正答率が高い傾向にあること、探究的な学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が増えていることなどが明らかになっている。また、総合的な学習の時間の役割はPISAにおける好成績につながったことのみならず、学習の姿勢の改善に大きく貢献するものとしてOECDをはじめ国際的に高く評価されている。
- その上で、今後さらなる充実が期待されることとして、概ね以下のような課題がある。
 - ・ 一つ目は、総合的な学習の時間で育成する資質・能力についての視点である。総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められている。
 - ・ 二つ目は、探究のプロセスに関する視点である。探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上をより一層意識することが求められる。
 - ・ 三つ目は、高等学校における総合的な学習の時間のさらなる充実という視点である。地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。

(イ) 課題を踏まえた総合的な学習の時間の目標の在り方

(総合的な学習の時間の目標)

○ これまでは総合的な学習の時間において各学校において育成すべき資質・能力・態度として、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」の3つの視点が例示されていた。これら3つの視点と、資質・能力の3つの柱に即して、総合的な学習の時間で育成する資質・能力について整理した。（別添17-1を参照）

○ これらを踏まえ、総合的な学習の時間においては、探究的な（探究の）見方・考え方を働かせて、よりよく課題を解決し、自己の（在り方）生き方を考えることを通して、資質・能力を育成することを目標として示す必要がある。（括弧内は高等学校）（別添17-2を参照）

（教育課程全体における総合的な学習の役割とカリキュラム・マネジメント）

○ 総合的な学習の時間において、学習指導要領に定められた目標を踏まえて各学校が教科横断的に目標を定めることは、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵となる。各学校が定める目標についても、資質・能力の3つの柱の考え方を踏まえたものとなることが求められる。

○ 教科横断的に学ぶ総合的な学習の時間において、各教科等の見方・考え方を活用することによって、見方・考え方は多様な文脈で使えるようになるなどして確かなものになり、各教科等の「深い学び」を実現することにもつながるものと期待できる。

○ 学年間・学校段階間といった「縦」のつながりでも期待される役割が大きい。小学校、中学校、高校の中で、どのような学習を行い、資質・能力を養うことを積み上げていくのかという中で、総合的な学習の時間においてどのような目標、内容の学習を行うかということがひとつの軸となる。

○ さらに、総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校が定めるという点において、各学校の教育目標に直接的につながる。特に、高等学校では総合的な学習の時間がその学校のミッションを体現するものとなるべきである。

（ウ）総合的な学習の時間における見方・考え方

○ 総合的な学習の時間の特質から求められることは、大きく整理すると、以下のような点がある。

・ 一つの教科等の枠に収まらない課題に取り組む学習活動をとおして、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連づけ、学習や生活に生かし、それらが児童生徒の中で総合的に働くようにすること。

・ 多様な他者と協働し、異なる意見や他者の考えを受け入れる中で、実社会や実生活との関わりで見出される課題を多面的・多角的に俯瞰して捉え、考えること。

- ・学ぶことの意味や意義を考えたり，学ぶことを通じて達成感や自身を持ち，自分のよさや可能性に気付いたり，自分の人生や将来について考え学んだことを現在及び自己の将来につなげたりして考えるという，内省的（Reflective）な考え方をすること。特に高等学校においては自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見方・考え方を組み合わせて統合させ，活用すること。

- これらを踏まえてまとめると，総合的な学習の時間の見方・考え方は「各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的（・統合的）に活用して，広範（かつ複雑）な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会や実生活の（複雑な）文脈や自己の（在り方）生き方と関連付けて振り返り（内省的に）考えること」であると言える。（括弧内は高等学校）

（ii）具体的な改善事項

（ア）教育課程の構造化

（a）資質・能力を育成する学習過程の在り方

- 総合的な学習の時間において，①「課題の設定」→②「情報の収集」→③「整理・分析」→④「まとめ・表現」といった探究のプロセスを通して資質・能力を育成する。こうした中で，各教科等の見方・考え方を総合的（統合的）に活用し，広範かつ複雑な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会や実生活の複雑な文脈の中で物事を考えたり，自分自身の在り方生き方と関連付けて内省的に考えたりすることが総合的な学習の時間における学習過程の特徴である。（別添 17-3 を参照）
- 各教科等で育成された見方・考え方を総合的・統合的に活用することで，各教科等の見方・考え方と総合的な学習の時間の見方・考え方は相互に関連し合いながら，より確かなものとなり，実社会・実生活の中で生きて働くものとなっていく。
- この過程の順序は入れ替わったり，一体化したり，重点的に行われたり，一連の過程がより大きな過程の一部になったりもする。児童生徒にとっては試行錯誤を繰り返すことによりこうした過程を行ったり来たりすることも重要であり，時には失敗したり立ち止まって前提を疑って考えることがあってこそ探究的な学びである。

（b）指導内容の示し方の構造

- 学習指導要領において総合的な学習の時間の目標を示し，各学校においてそれを踏まえて目標や内容を設定するという基本的な構成は維持すべきと考えられる。その上で，総合的な学習の時間を通じて育成すべき資質・能力や，教育課程全体における総合的な学習の時間の役割等を明確にするという観点から，総合的な学習の時間に関する学習指導要領における示し方についても構造を再整理する必要がある。
- 学習活動の例示については，総合的な学習の時間が果たすべき役割を踏まえ，学習活動の設定に関して望まれる考え方を示す。（例えば，実生活・実社会に関する現代社会

や地域社会に関する課題などとする事、児童生徒にとって身近に感じられ、かつ、探究的に学ぶ意義等を実感できるような課題を設定すること等)

- 「知識・技能」に関して、総合的な学習の時間の見方・考え方を働かせた学習活動を通して獲得される概念（的な知識）の方向性を例示するなどの示し方の工夫を行う。
- 「思考力・判断力・表現力等」に関して、探究のプロセスを通じて働く学習方法（思考スキル）に関する資質や能力を例示するなどの示し方の工夫を行う。
- 「学びに向かう力・人間性等」に関して、探究活動と自分自身、探究活動と他者や社会に関する資質・能力を例示することを検討する。特に高等学校においては、探究と自己のキャリア形成を関連付けることを明確化するなどの示し方の工夫を行う。
- 全体計画及び年間指導計画の作成に当たり、育成する資質・能力を明示するとともに、児童生徒や保護者、地域・社会にも積極的に説明し共有するよう求めることが考えられる。

(イ) 教育内容の改善・充実

(a) 構成の見直し

- 各学校段階における総合的な学習の時間の実施状況や、義務教育9年間の修了時及び高等学校修了時まで育成すべき資質・能力、高大接続改革の動向等を考慮すると、高等学校においては、小中学校における総合的な学習の時間の取組の成果を活かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、位置づけを明確化し直すことが必要と考えられる。
- 小学校、中学校においては、各教科等の特質に応じて育まれた見方・考え方を総合的に活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成し、探究的な学習が自己の生き方に関わるものであることに気付くようにする。
- それを基盤とした上で、高等学校における総合的な学習の時間においては、各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的・統合的に活用することに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら見方・考え方を組み合わせて統合させ、活用しながら、自ら問いを見出し探究することのできる力を育成するようにする。
- このため、高等学校の総合的な学習の時間については、名称を「総合的な探究の時間（仮称）」などに変更することも含め位置づけを見直す。これまでの実践事例や国際バカロレアディプロマプログラムにおける「知の技能」なども参考に、各学校の取組が一層の充実を図るようにする。より探究的な学習を展開するための学ぶ教材を作成し、提供することも求められる。

- キャリア形成と関連付けるという点においては、専門教科における課題研究科目や検討中の「理数探究（仮）」と同様の性格を持つが、総合的な学習の時間では、特定の分野を前提とせず、実社会や実生活から自ら見出した課題を探究していくことを通して自己のキャリア形成の方向性を見出すことにつなげていく。

(b) 教育内容の見直し

- 総合的な学習の時間においては、学習課題の例示として、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的な課題や地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題などを示している。教科横断的な課題については、総合的な学習の時間で扱うだけでなく、各教科等の学習と関連付け、全体としてどのような資質・能力を育成していくかという視点も重要である。
- 教科横断的に育成すべき資質・能力については、総則の見直しを踏まえて総合的な学習の時間に関しても必要な規定を置くことが適当である。

(持続可能な社会という視点)

- 持続可能な開発のための教育（ESD）は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であると言えるが、そこで求められている資質・能力（国立教育政策研究所の整理によれば、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力）は、総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力としていくことになると考えられる。
- 持続可能な社会の担い手として必要とされる資質・能力を育成するには、どのようなテーマを学習課題とするかではなく、必要とされる資質・能力を育むことを意識した学習を展開することが重要である。各学校がESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくに当たり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。

(情報活用能力の育成、プログラミング的思考や社会との関わりの視点)

- 総合的な学習の時間においては、情報の集め方や調べ方、整理・分析の仕方、まとめ方や表現の仕方などの教科横断的に活用できる「学び方」を身に付け、学習の過程において情報手段の操作もできるようにすることが求められる。
- 「プログラミング的思考」など、子供達が将来どのような職業に就くとしても求められる力を育むため、小学校段階でプログラミングを体験する教育が求められている。総合的な学習の時間では、例えば、探究的な学習の中で、プログラミングを体験しながら、自分の暮らしとプログラミングとの関係を考え、そのよさに気付く学びを取り入れていくことが考えられる。

- その際、プログラミングを体験することが、総合的な学習の時間における学びの本質である探究的な学習として適切に位置づけられるようにすることとともに、児童一人一人に探究的な学びが実現し、一層充実するものとなるように十分配慮することが必要である。

(ウ) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(a) 主体的・対話的で深い学びの実現

①「深い学び」の視点

- 探究のプロセスを一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学ぶ中で、各教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を総合的に活用することで、個別の知識や技能は関連付けられて概念化し、能力は実際の活用場面と結び付いて汎用的になり、多様な文脈で使えるものとなることが期待できる。
- 特に、「①課題の設定」の場面で課題を自分事としてとらえること、「③整理・分析」の場面で俯瞰して捉え内省的に考えるという探究的な見方・考え方を働かせることが重要である。

②「対話的な学び」の視点

- 多様な他者と力を合わせて問題の解決や探究活動に取り組むことには、①他者へ説明することにより知識や技能の構造化が図られること、②他者から多様な情報が収集できること、③新たな知を創造する場を構築できることといったよさがある。
- 例えば、情報を可視化し操作化する思考ツールの活用などにより、児童生徒同士で学びあうことを助けるなどの授業改善の工夫によって、思考を広げ深め、新たな知を創造する児童生徒の姿が生まれるものと考えられる。
- 協働的に学習することはグループとして結果を出すことが目的ではなく、一人一人がどのような資質・能力を身に付けるかということが重要であることに留意する。
- また、「対話的な学び」は、学校内において他の児童生徒と活動を共にするというだけでなく、一人でじっくりと自己の中で対話すること、先人の考えなどと文献で対話すること、離れた場所をICT機器などでつないで対話することなどを含め、様々な対話の姿や対象が考えられる。

③「主体的な学び」の視点

- 総合的な学習の時間において、探究のプロセスの中で主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要である。課題の設定に当たっては、自分事として課題を設定し、主体的な学びを進めていくようにするため、実社会や実生活の問題を取り上げることや、

学習活動の見通しを明らかにし、ゴールとそこに至るまでの道筋を描きやすくなるような学習活動の設定を行うことが必要である。

- 振り返りについては、自らの学びを意味づけたり価値づけたりして自己変容を自覚し、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語によりまとめたり表現したりする学習活動を意識することが必要である。
- 振り返りは授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通したことを確かめ、必要に応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主体的に行う資質・能力を育てることも重要である。

(b) 教材や教育環境の充実

(教材の在り方)

- 高等学校において、生徒が主体的に探究していく上で助けとなるような、全国共通で活用できる教材等を作成することを検討する。例えば課題の設定や、情報の整理・分析に関する思考のスキル、成果を適切にまとめて発表するための方法といったことを学べるものとするのが考えられる。その際、高等学校の総合的な学習の時間が、「当該教材を教えるもの」にならないよう留意する。

(必要な条件整備)

- 各学校において、すべての教職員が協力して力を発揮するため、校長のビジョンとリーダーシップのもと、各学校が育成しようとする子供の姿から必要な資質・能力を明らかにし、各教科をつないでカリキュラムデザインができるミドルリーダー的な教員が育つことが期待される。
- 総合的な学習の時間を担当する教員の資質・能力向上を図るため、国や都道府県等のレベルで各地域の取組状況等を協議できる機会を引き続き充実する。
- 「社会に開かれた教育課程」の視点から、学校と保護者とが育成したい子供たちの資質・能力について共有し、必要な協力を求めることも大事である。
- 地域との連携に当たっては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の枠組みを積極的に活用することが望まれる。地域の様々な課題に即した学習課題を設定するにあたり、教育委員会と首長部局との連携も強く求められる。

資質・能力の三つの柱に沿った、小・中・高を通じて 総合的な学習の時間において育成すべき資質・能力の整理（素案）

別添 17 - 1

国が定める目標及び各学校の教育目標に基づき各学校において設定

	知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small> (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○ 探究することの意義や価値の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究することを通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的(協働的)に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 など
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○ 探究的な学習のよさの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な探究活動の経験を自己の成長と結び付け、次の課題へ積極的に取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的(協働的)な探究活動の経験を社会の形成者としての自覚へとつなげ、積極的に社会参画しようとする態度を育てる。 など
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識(及び概念) ○ 課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能 ○ 探究的な学習のよさの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究的な学習を通して身に付ける課題を見だし解決する力 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定 ・情報収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的な探究活動の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする態度を育てる。 ○ 協同的(協働的)な探究活動の経験を実社会・実生活への興味・関心へとつなげ、進んで地域の活動に参加しようとする態度を育てる。など

教育課程全体におけるアクティブ・ラーニングの視点での学習活動を支える

迎
新
一

202

（第8回WG資料を修正）

各教科等の特質に応じて育まれる見方考え方を、総合的な学習の時間で総合的に活用
 総合的な学習の時間において各教科等の見方考え方を活用することで、多様な文脈で使えるようになるなど、各教科等の見方考え方が成長し、「深
 い学び」が実現

【高等学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

探究の見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の在り方生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解するようにする
 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
 主体的・協同的（協働的）に課題を探究し、互いのよさを生かしながら、新たな価値の創造やよりよい社会の実現に努めようとする態度を
 育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

探究する能力を育むための総仕上げとしての在り方を明確化し、名称についても見直す
 （例えば「総合的な探究の時間」あるいは「探究の時間」等）

【中学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
 主体的・協同的（協働的）探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

【小学校】

学習指導要領で示す目標（イメージ）

探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えることを通して、次のとおり資質・能力を育成する。

課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得し、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、探究的な学習のよさを理解するようにする
 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を育成する
 主体的・協同的（協働的）探究的な学習に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する態度を育てる

各学校が設定する目標：上記を踏まえて、各学校が目標を設定するとともに、その目標を踏まえた内容を定める。

■小学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ■手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を収集し分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■問題状況における事実や関係を把握し理解する ■多様な情報の中にある特徴を見付ける ■課題解決を目指して、事象を比較したり、関連付けたりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する ■学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験を自信につなげ、次の課題へ進んで取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、目標の達成に向けて取り組もうとする（他者理解） ○探究的な課題解決が実社会・実生活への興味・関心へとつながり、進んで地域の活動に参加しようとする（社会参画、社会貢献） 			

知識

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

技能

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け)

別添 3

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

■ 中学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 複雑な問題状況の中から適切に課題を設定する ■ 仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 目的に応じて手段を選択し、情報を収集する ■ 必要な情報を収集し、多角的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ ■ 視点を定めて多様な情報を分析する ■ 課題解決を目指して、事象を比較したり、因果関係を推測したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 相手や目的、意図に応じて論理的に表現する ■ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題に誠実に向き合い、課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○ 自分のよさを生かしながら探究活動に向き合い、責任をもって計画的に取り組もうとする（自己理解） ○ 探究的な課題解決の経験を自己の成長と結び付けて考えることができ、次の課題へ積極的に取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの特徴を生かすなど、課題の解決に向けて探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○ 異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを理解しようとする（他者理解） ○ 探究的な課題解決が社会の形成者としての自覚へとつながり、積極的に社会活動へ参加しようとする（社会参画、社会貢献） 			

205

知識

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得 概念的知識^(※)の形成

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

技能

課題設定のスキル → 情報収集のスキル → 思考のスキル → 表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的)

■ 知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する ■ 技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する

■ 高等学校

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な社会状況を踏まえて課題を設定する ■仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する 	<ul style="list-style-type: none"> ■目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する ■必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的、实际的に分析する 	<ul style="list-style-type: none"> ■複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する ■視点を定めて多様な情報から帰納的、演えきの考察する ■事実や事実間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える 	<ul style="list-style-type: none"> ■相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する ■学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かす
探究活動と自分自身	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に真摯に向き合い、より適切な課題の解決に向けて探究活動に主体的に取り組もうとする（主体性） ○自分の特徴を生かし当事者意識と責任感をもって探究活動に向き合い、計画的に着実に取り組もうとする（自己理解） ○探究的な課題解決の経験の蓄積を課題解決への信念や自信、自己肯定へとつなげ、更に高次の課題に取り組もうとする（内面化） 			
探究活動と他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> ○互いを認め特徴を生かし合うなど、課題の解決に向けた探究活動に協同的に取り組もうとする（協同性（協働性）） ○異なる意見や他者の考えを受け入れながら探究活動に向き合い、互いを尊重し理解しようとする（他者理解） ○探究的な課題解決の経験の蓄積が、自己有用感や実社会・実生活に貢献しようとする態度へとつながり、社会の形成者としてよりよい社会の実現に努めようとする（社会参画、社会貢献） 			

知識

技能

実社会の課題に関する事実的知識^(※)の獲得

概念的知識^(※)の形成
学ぶことの意義や価値の理解

※総合的な学習の時間で扱う内容は各学校において定めることとなっているため、知識の具体は各学校において異なる。

課題設定のスキル

情報収集のスキル

思考のスキル

表現のスキル

(比較・分類・関連付け・多面的・構造的)

■知識は、学校種が上がるほど高度化・構造化する

■技能は、思考スキルを中核とし、学校種が上がるほど自覚化・脱文脈化する